

2026年2月6日

日本板硝子株式会社

2026年3月期 第3四半期決算に関する主なご質問

Q: 通期営業利益予想 310 億円から第3四半期累計営業利益の 185 億円を差し引きすると、第4四半期の営業利益は 125 億円となる。大幅な営業増益の予想だが、各事業の事業環境はどう見ているか？

A: 基本的にはこれまでの事業環境から大きな変化はない想定です。

建築用ガラス事業：

第4四半期は例年、欧州を中心に季節性として第3四半期と比較して需要が強まる傾向にあります。またアジアの太陽電池パネル用ガラスにおいても第2四半期は米国関税政策を受けた取引先の生産調整の影響を大きく受けましたが、第3四半期は米国工場向けの出荷もあり改善傾向となり、第4四半期も改善が進む見込みです。

自動車用ガラス事業：

北米で発生している一時的な生産効率低下の影響が徐々に小さくなっていくと見ています。

高機能ガラス事業：

期初計画通り第3四半期より製品構成の改善が進みましたが、第4四半期も改善が継続します。

Q: 決算説明プレゼン資料では「通期業績予想の達成はチャレンジング」と記載している一方で、今回業績予想を修正しなかった背景は？

A: 第3四半期累計の業績は計画比で弱めではあり、各事業においては前述の通りの事業環境を予想しており事業環境としては厳しいですが、通期業績予想の達成も依然可能であると考えているためです。グループ全体ではさらなるコスト削減なども進めています。また繰延税金資産の見直しも検討中でありそれらの恩恵を受ける可能性があります。

Q: 自動車用ガラス事業は第3四半期の営業利益は0億であり、第2四半期の11億円から減少している。減少した背景は？

A: 主に北米の新車用ガラス事業の一時的な生産効率低下の影響を受けました。足元では、オペレーションの見直しを含めた施策の効果により改善をしており、第3四半期をボトムに回復が進むと見ています。

また欧州においては、既に解消していますが、お客様がサイバー攻撃により一時的に生産を停止した影響を受けたことなどが挙げられます。

以上により第4四半期は営業利益が改善する見込みです。

Q: 2027年3月期に向けた考え方を教えてほしい。現状 2026年3月期の業績予想達成はチャレンジングな状況だが、来期のアップサイド要因はあるか？

A: まずは現在回復が遅れている欧州の景気が、2027年3月期中から徐々に改善していくと想定しています。建築用ガラス事業については日本と欧州において投資を行っているコーティング設備の稼働が開始し、製品構成の改善を通じて業績に寄与する見込みです。自動車用ガラス事業においては欧州と北米で受注した新車種の貢献が見込まれます。さらに欧州におけるリストラによるコスト削減の効果が通期で寄与する見込みです。